



自ら考え判断し、自信をもって 行動する子を育てる

エージェンシー
(子ども主体の学び)

心理的安全性
(失敗できる環境)

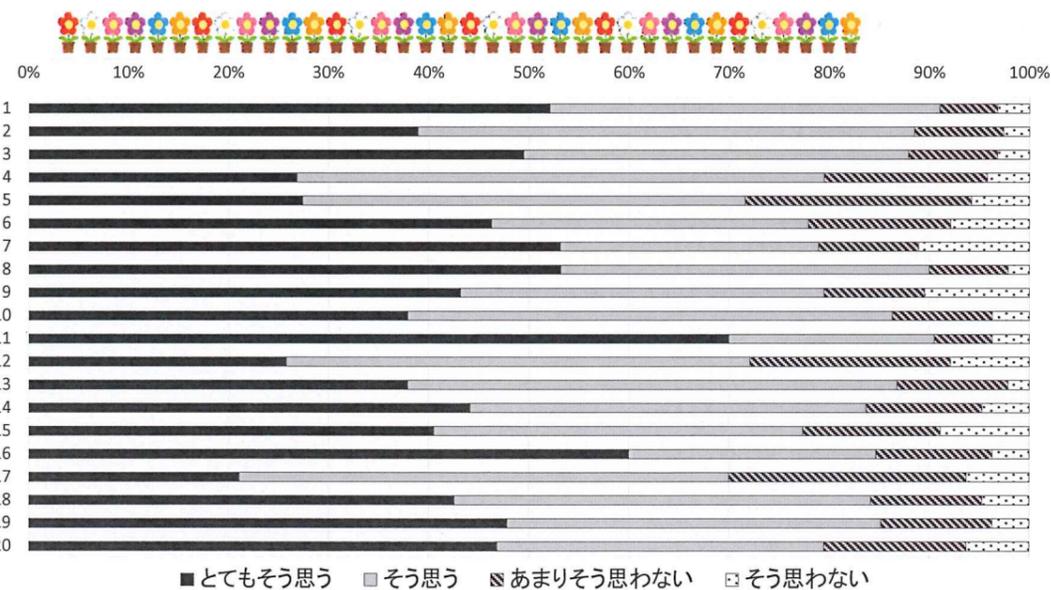
みんなが笑顔
(持続的に魅力ある学校)

特集 学校評価 (1)

保護者の皆様には、第2回「学校評価アンケート」(12月実施)にご協力いただきありがとうございました。保護者・児童・教職員のアンケート結果をもとに、成果や課題を分析しました。分析結果を全教職員と共有し、保護者・地域の皆様と共に連携を図りながら、今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

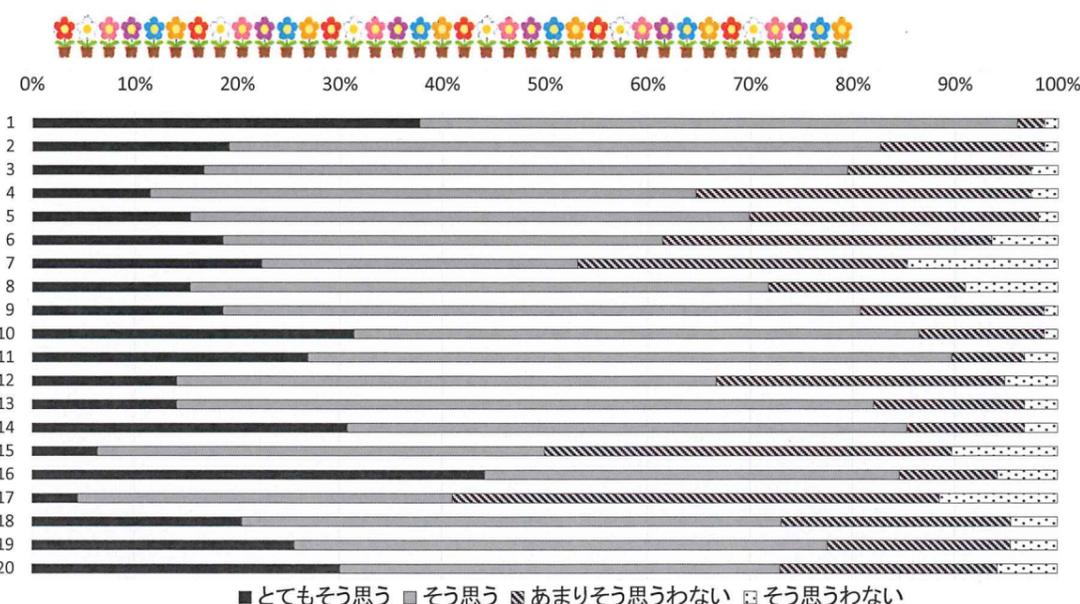
児童集計

1	がっこうは たのしい。	11	クラスには たすけあえる ともだちがいる。
2	がっこうの がくしゅうは よくわかる。	12	いろいろなせんせいと はなしたり そうだんしたりしている。
3	いろいろなせんせいが じゅぎょうしてくれるのは たのしい。	13	「しまんのやくそく」を まもっている。
4	じぶんから もんだいを見つけ、かいけつほうほうを かんがえている。	14	じぶんから げんきにあいさつを している。
5	がくしゅうしたことを ともだちとはなしあったり ぶんにかいたり はっぴょうしたりしている。	15	じぶんの もちもの せりせいとんができて いる。
6	かていがくしゅう(しゅくだいなど)は じぶんからす すんで している。	16	たのしくあそんだり うんどうしたりして からだをうごかしている。
7	ほんを よむのが すきです。	17	しせいをたたくして がくしゅうしている。
8	GIGAたんまつを がくしゅうどうぐとして つかいこ なしている。	18	てらい・うがい・はみがきはいつもして いる。
9	じぶんには よいところがある。	19	はやね・はやおきをし、あさごはんをたべて いる。
10	あいてのきもちをかんがえて はなしたり こうどうし たりしている。	20	きゅうしよくは、すききらいせず たべて いる。



保護者集計

1	わが子は楽しく学校へ行っている。	11	わが子には困った時に助け合える友達がいる。
2	わが子は学習内容を理解している。	12	わが子は学級担当以外に、いろんな先生と話したり相談したりしている。
3	わが子は学年担任や教科担任の授業を楽しみにしている。	13	わが子は家庭の約束を守っている。
4	わが子は自分から問題を見つけ、解決しようとしている。	14	わが子は家族や知り合いの人とあいさつをかわしている。
5	わが子は学習したことを、自分で考えた方法で自信をもって表現している。	15	わが子は身の回りの準備や後片付けができて いる。
6	わが子は家庭学習(宿題など)を自分から進んで している。	16	わが子は楽しく遊んだり運動したりして 体を動かしている。
7	わが子は 家で 本を読んでいる。	17	わが子は食事や学習をしている時、姿勢を正しく している。
8	わが子はGIGA端末を学習道具として使っている。	18	わが子は手洗い・うがい・歯磨きの習慣がついて いる。
9	わが子は自分のよいところに気付いている。	19	わが子は早寝・早起き・朝ごはんの習慣ができて いる。
10	わが子は相手の気持ちを考えて行動している。	20	わが子は好き嫌いせず食べている。



○設問3(学年・教科担任制)では、前回よりも肯定的な回答が6ポイント、設問4(主体性)では2ポイント増えていました。2学期に入り、学年・教科担任制に慣れることで、担任以外の先生とも少しずつ信頼関係を深めることができるようになってきました。様々な教員が授業を担当することにより、授業の多様性を楽しく感じることできるようになってきたのではないかと考えます。今後も、教員から積極的に児童へコミュニケーションをとり、いくことで、複数の目で児童を見守っていききたいと思います。

○設問14(挨拶)・16(運動)・19(早寝・早起き・朝ごはん)の基本的な生活習慣に関わる設問に対しては、肯定的な回答が2ポイントとわずかではありますが、増えています。学校はもちろん、家庭でもお声かけいただくことで、児童の意識が高まっています。

●設問5(表現)については、否定的な回答が5ポイント増えていました。本校では、今年度「主体的に学習に取り組み、自信をもって表現する子の育成」という研究主題のもと授業改善に取り組んできました。この結果を受け止めて課題を分析し、「児童が学んだことを表現しなくなる」授業改善のために「心理的ハードルを下げる環境づくり」「思考を整理・可視化するツールの活用」「対話の質を高めるための教員の支援」の3点を重点的に取り組んでいきたいと思います。

●設問17(姿勢)については、否定的な回答が、5ポイント増えました。この設問は保護者アンケートにおいても、否定的な回答が60%近くありました。授業中の姿勢については、教職員の中でも指摘があり、学習規律を見直すように話し合いました。姿勢については、視力などの健康にもかかわることなので、児童に丁寧に指導していきたいと思ひます。

○設問20(食について)は、肯定的な回答が4ポイント増えていました。家庭においても、食の重要性についてお声かけいただいている結果がすこずつ出ています。学校においても、残飯が少しずつ減っている傾向です。学校では、年に2回全学年、栄養教諭による食の指導を実施したり、5年生では、和食のだしについて、昨年度より2年間学習し、伝統的食文化についても学ぶなど、食育の充実を図っています。食は、生涯にわたる心身の健康の保持増進にとって、最も大切な要素の一つです。引き続き、食に関する指導を推進してまいりたいと思ひます。

●設問2(学習内容の理解)では8ポイント、設問3(学年・教科担任制)では10ポイント、設問4(主体性)では14ポイントと、学習・授業面の設問でそれぞれ否定的な回答が増えています。児童アンケートと比較すると、特に、設問3(学年・教科担任制)が改善(+6ポイント)しているのに対し、保護者側では低下(-10.7ポイント)しています。これは「子どもは楽しいが、保護者には学習効果や到達が伝わりにくい」ことが考えられます。後期は、内容が難しくなるうえ、学年末で評価・まとめに向けた学習が増え、保護者の皆様からの視点からすると「むずかしさ」「成果の見えづらさ」を感じやすかったのではないかと推察します。今後、学習過程や成果の可視化を進めることで、児童にとっても、保護者の皆様にとっても、授業のねらい・成果の共有等を拡充することを意識して改善していきたいと思ひます。

●児童アンケートで設問5(表現)・設問6(家庭学習)が低下している点は、保護者アンケートにおいても一致しています。家庭学習への主体性を高めていくためには、「自分で決めた」という感覚(自己肯定感)と、「できた」という達成感のサイクルを作ることが大切だと考えます。学習計画表やTO DOリストなどを作成することで、家庭学習のプロセスを「見える化」をすることで、達成感につなげることができないかを、校内で協議・検討していきたいと思ひます。

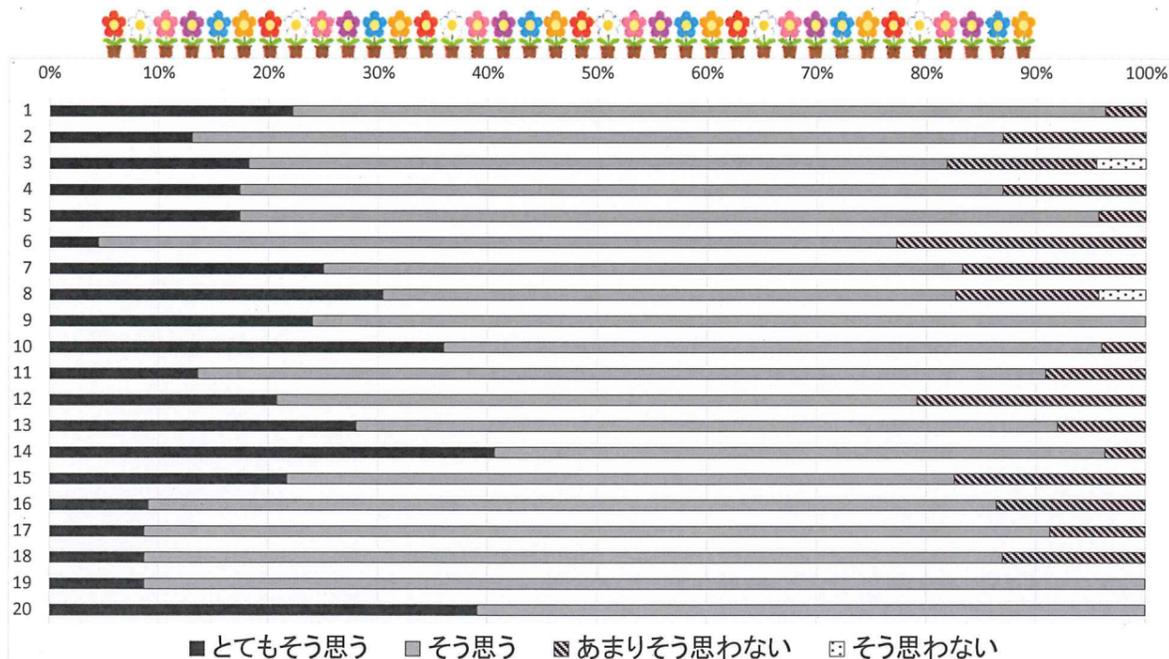
特集 学校評価



教職員集計



1	学校が楽しくなるよう工夫をしている。	11	仲間意識を高め、協力し合える学級づくりに取り組んでいる。
2	わかる(習得)→できる(活用)→生かす(探究)を目指した授業改善を図っている。	12	チームで学年や全校の子どもと関わり、指導を進めている。
3	教科担任制によって、授業改善を図っている。	13	「しきんのやくそく」を守るよう指導している。
4	子どもは問題意識をもって主体的に学びが進められるよう指導している。	14	子どもたちの見本となるよう笑顔であいさつをしている。
5	目的や場に応じた方法で、自信をもって表現できるように指導している。	15	整理整頓された教室環境に努めている。
6	家庭学習(宿題など)に主体的に取り組めるよう指導している。	16	楽しく遊んだり運動したりして体を動かす機会をつくっている。
7	毎日、読書に親しめる機会をつくっている。	17	子どもたちが姿勢を正しくできるよう指導している。
8	子どもたちがGIGA端末を効果的に活用する学習活動を積極的に進めている。	18	手洗い・うがい・歯磨きの定着に努めている。
9	子どものよさや頑張り認め、ほめる指導をしている。	19	早寝・早起き・朝ごはんの大切さを指導している。
10	相手の気持ちを考えて行動するよう指導している。	20	給食を残さず食べるよう取り組んでいる。



○設問3(学年・教科担任制)においては、肯定的な回答が4ポイント増えていました。後期に入り、教職員間の授業や子どもの様子についての情報共有や連携に慣れることで、より児童の実態にあった授業改善につながってきているのではないかと思います。

○設問20(食について)は、肯定的な回答が5ポイント増えていました。この設問については、保護者アンケートにおいても上昇しており、家庭からも学校からも、児童へ食に関する指導を働きかけた結果が実を結んでいます。

●設問8(GIGA)においては、否定的な回答が増えていました。ICTの活用に関しては、この数年間でGIGAスクール構想の推進により、デジタル学習基盤を効果的に活用できるような技能を児童は身に付けることができている一方で、SNSやメールの利用など情報モラルに課題を抱える実態がみられることを受け、より具体的な事例を挙げて、情報モラル指導していくことが必要であることを多くの教員が認識しています。今後、外部講師(警察など)によるネットトラブル対策講座の受講対象学年を拡充するなど学校としても対策を考えていきたいと思っています。

●設問6・7(家庭学習・読書)については、否定的回答が15ポイントほど増えていました。これまでの家庭学習や読書の推進などは、学校全体の取組を実施し、一定成果を実感はしていますが、課題を抱える児童への有効な支援や指導法について、まだまだ改善していく余地はあると考えます。今後、学校全体として、課題を抱える児童への支援について、他校の実践例なども参考に考えていきたいと思っています。



学校教育目標

自ら考え判断し、自信をもって 行動する子を育てる

エージェンシー
(子ども主体の学び)

心理的安全性
(失敗できる環境)

みんなが笑顔
(持続的で魅力ある学校)

～学校運営協議会より～ いただいたご意見ご感想

・『後片付け』や『姿勢』については、学校・家庭の双方向から粘り強く指導していくことが大切だと思います。指導する際は、「どうして後片付けをしたり、姿勢を良くしたりすることが大事なのか」ということを丁寧に伝えて、子どもに納得させることが実践につながります。さらに、大人がまず良い手本となり実践することで、子どもたちもその姿を見て、少しずつ取り組むようになってくるのではないのでしょうか。

・『後片付け』などは、生活の工夫や知恵が必要になるので、具体的に指導し、楽しんで取り組めるような手立てを考えるといい。楽しく学び実践出来たら、達成感につながり、その経験が続くと他のことにもチャレンジできる。そのような取組を、保護者の方を対象に、「家庭教育講座」を企画して、保護者の皆さんにとって、ヒントになりそうなことを発信できるといい。

・『食に関する習慣』が改善してきたことはとても良いことだ。引き続き、学校から『給食だより』などを通して、食育の情報を発信していくことで、保護者の方の「やってみよう。」につなげ、家庭における食育の充実につなげていければいい。

・設問(1)と設問(11)の肯定率が高いのととても良いことだ。やはり、よりよい友達関係を築いていくことは、学校生活の充実に大きく影響する。



～学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました～

結果から、本校の教育が地域の皆様・保護者の皆様のご理解と温かな見守りに支えられていることを再確認するとともに、本校の課題も明らかにすることができました。

今後も、学校教育目標『自ら考え判断し、自信をもって行動する子を育てる』の具現化をめざし、取組を進めて参りたいと思います。

京都市では、今日に至る教育改革の柱として、徹底して「開かれた学校づくり」を推進してきました。これは、学校と家庭・地域との相互の信頼と協働の関係を構築する基盤となっています。今後も、保護者や地域の方々に参画いただき市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を展開していきます。変化の激しい現代社会において、子どもたちが自ら考え判断し、自信をもって行動し、未来を切り拓いていけるように「生きる力」を育み、社会全体で子どもたちの教育に取り組んでいくことが大切です。子どもたちの豊か学びと育ちのために、尚一層のご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。